

令和2年度

牟岐中学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①主体的に学習する生徒を育てるわかる授業の確立。
- ②体験活動や言語活動の充実。
- ③保小中の系統的な学習方法の確立。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 中口 尚美	委員 学校長 小泉 博	教頭 前田 耕作
	教務主任 坂田 博紀	1学年主任 田上 正史
	2学年主任 中口 尚美	3学年主任 磯口 美幸

校長

小泉 博



【各校の取組状況の把握について】

管理職や教員による相互授業参観や情報交換を通して、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業態度は良好で、朝自習も集中して取り組んでいる。「ながら」学習をしないように意識している生徒が増えた。 ●学力が二極化傾向にある。聞く力が弱い。家庭での学習習慣が身につけていない生徒が少なくない。	①意欲的に授業に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ②学習方法を身につけ、自主的に学習に取り組むことができる。	①相互授業参観を学期に1回実施し、わかりやすい授業をめざした職員研修を行う。 ②授業では「ふり返り」の時間を確保し、課題は計画的に取り組んで提出させる。 ③保・小・中で「聞くこと」に重点を置いた取り組みを行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分で調べたことや考えたことを発表することを通して、積極的に言語活動等に取り組む姿勢が見られた。 ●人間関係が固定化しがちである。積極的に発言する生徒としない生徒が概ね決まっている。	①すべての授業を通して、自分の思いを正しく表現できる。 ②異年齢集団や地域の人との交流を通して、積極的に発言し、意見をまとめることができる。	①すべての授業に言語活動を取り入れたり、学習形態の工夫や思考ツールを利用したりする。 ②異年齢集団や地域の方と連携し、生徒主体の体験的な活動を通して、学んだことを発信し、表現する力を伸ばす。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に前向きに取り組む姿勢がみられ、生活のきまりを守って学校生活を送ることができている。 ●自ら課題を見つけていくなど探求心を持って取り組もうとする意欲にも二極化傾向がみられる。	①学ぶ楽しさや喜びを感じて、自信をもって粘り強く学び続けることができる。 ②自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	①主体的な活動や、意欲を高め、成功体験を味わうことができる活動を取り入れる。 ②情報交換を密にし、生徒理解を深めて、個に応じた指導を行う。 ③仲間と助け合い、協力し合えるような集団づくりを目指す。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

